

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上 （学校教育自己診断） 2 環境問題やボランティア活動に対する意識の向上 3 中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	「学校油田」プロジェクト～プラスチックゴミで発電を～SDGsの観点から

2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取り組みの強化 （2）特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒に「自己有用感」を醸成する。 ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。 【学校経営推進費】 今年度、新たに「学校油田プロジェクト」の企画を認めていただき、学校経営推進費を獲得した。ペットボトルキャップを油化し、既存のバイオディーゼル発電機の燃料として活用する。防災イベントや被災地で発電をすることで、ライフラインの電気が使えない状況に対する打開モデルとして発信し、活動を充実させていく。 ※ 様々な事業に応募し、その活動を通して生徒の自己有用感を醸成する。
事業目標	本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。 ・工科高校ならではの「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ・環境活動を通して学校外で様々な体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ・地球温暖化などの環境問題と、自然災害との相互関係について、「学校油田」プロジェクトに取り組むことにより学び、「復興支援プロジェクト」（学校経営推進費事業）で得た防災知識と結びつけ、自助・共助の精神を養う。 ・ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を高める。 ・地球温暖化防止などの環境問題に取り組み、「プラスチックゴミ」で電気を作り、SDGsの観点から地域や被災地に向けて発信し、環境・防災の拠点校となる。
整備した 設備・物品	・プラスチックゴミ油化装置一式（改良費含む） ・プラスチック粉砕機
取り組みの 主担・実施者	プロジェクトリーダー：進路指導主事・学校設定教科「堺学」主担 学校油田プロジェクト企画・運営：「エコプロジェクト」及び「堺学」担当教員 地域（町会・小中学校等）との連携推進：進路指導部 生徒に対する諸活動：生徒会活動部 プラスチックゴミ油化装置・廃油再生燃料化装置・バイオディーゼル発電機の製作・改良：機械系・電気系職員

<p>本年度の 取組内容</p>	<p>最近、環境問題として注目されている「プラスチック・ゴミ」を何とか資源にできないかを考え「捨てればゴミ、活かせば資源」を合言葉に、地域の企業や地域の方々の協力のもと、「プラスチックゴミ油化装置」の製作・改良をおこなった。ペットボトルのキャップ等を「プラスチック粉砕機」で粉砕し、体積を減らしたうえで油化装置に投入する。できた油を、昨年度の学校経営推進費事業で購入・改良した「バイオディーゼル発電機」に投入して発電する。</p> <p>東北の被災地の方々にも報告し、有事の際の活用について検討した。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）60%以上</p> <p>2 ・ 学校油田プロジェクトへの参加生徒 40% ・ 1年次エコプログラムを作成・実施する</p> <p>3 退学率を11%台に収める、1年生の進級率（60%以上）、学校全体の進級卒業率（70%以上）</p>
<p>自己評価</p>	<p>1 「学校へ行くのが楽しい」（学校教育診断）……………（R2年度 63%） 「この学校には他の学校にない特色がある」……………（R2年度 56%）平均 61%（○） 「地場産業について学び、体験する機会が多い」……………（R2年度 64%）</p> <p>2 ・ 学校油田プロジェクトへの参加生徒（40%以上）……………（R2年度 30%）……………（△） ・ 1年次エコプログラムを作成・実施する……………（○）</p> <p>3 退学率11%台に収める……………（R2年度 9%）……………（◎） 1年生の進級率（65%以上）……………（R2年度 70%）……………（◎） 学校全体の進級卒業率（75%以上）……………（R2年度 85%）……………（◎）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、「プラスチックゴミ油化装置」の稼働の回数が制限され、装置を紹介する機会が少なかった。しかし、生徒たちと工夫を重ねて、動画を撮影し、オンラインで紹介した。</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>次年度は、校内、校外において「プラスチックゴミ油化装置」を紹介し、「プラスチックゴミ」を集める活動もおこない、「環境問題」についても取り組む。「プラスチックゴミ油化装置」と「バイオディーゼル発電機」で、たくさんの燃料と電気を作りたい。</p> <p>参加生徒を増やし、生徒の自己有用感を高め、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につなげる。</p>

3. 事業費報告

今年度事業費総額	1,096,000	円
----------	------------------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
1 報償費	1				
	2				
	3				
					小計
2 旅費	1	被災地訪問	¥33,000	1	¥33,000
	2				
	3				
					小計
3 消耗需用費	1				
	2				
	3				
					小計
4 維持需用費	1				
	2				
	3				
					小計
5 役務費	1				
	2				
	3				
					小計
6 委託料	1				
	2				
	3				
					小計
7 使用料 及び賃借料	1				
	2				
	3				
					小計
8 備品購入費	1	プラスチックミ油化装置一式（改良費含む）	¥920,000	1	¥920,000
	2	プラスチック粉砕機	¥143,000	1	¥143,000
	3				
					小計
9 工事請負費	1				
	2				
	3				
					小計
10 負担金・補助 及び交付金	1				
	2				
	3				
					小計
				合計	¥1,096,000